

第 23 回アンケート結果（抜粋）

4. 一般講演 4：「知識・技術・技能の伝承支援に関する考察—SIG-KST 講演内容の分類—」

1. サービス学的に考えると、視覚的な語彙に「初心者から熟練者へのループ」があればと思います。その方が、完全にモデル化しなくても熟練者の暗黙的なスキルを使った伝承ができる気がします。

（回答）視覚的な語彙の中では、技能獲得にフォーカスした場合にそのような関係性の記述が必要になると考えます。現在は伝承する対象を中心に書いているので含まれていません。確かに、技能獲得しようとする初心者に対する入力として、熟練者からの指導が選択肢の一つであり、その指導は初心者の反応や状態を考慮して実施されるべきというのはご指摘の通りです。視覚的な語彙については、視点の異なるバージョンを複数作成する必要性を感じていますので、今後も引き続き検討させていただきます。

2. 可視化については、もっとデザインフルに、且つ関連性情報を何らかの距離感で示せないでしょうか？

（回答）質問の意図を正確に理解できている自信がありませんが、技能の可視化のことと理解してお答えします。技能の可視化については、どのようなデータを計測して可視化するか、対象となる問題や意図によって適切な方法が異なると思いますが、より見やすく、より情報量を増やして、という方法は当然選択肢に入ると思います。実際にどうすると良いのかについては、まさに研究会で扱うテーマだと思いますので、今後の研究の進展に期待していただければと思います。

3. 文章等に記述されている情報の形式知化が多くなってしまいます。自身の研究より技能の伝承等にフォーカスしたいのですが、それを抽出するのが難しいです。インタビューしても「自分もどうやっているか説明できません」と言われてしまいます。

（回答）技能の伝承をテーマにした場合の抽出の難しさについては、同様の報告が過去の研究講演でもなされていて、現状はその点を苦勞して乗り越えた事例が発表されていると理解しています。研究会の扱うテーマとしては、それを誰でも簡単にできる方法を生み出すことがある種の理想かもしれませんが、それはそれで別の問題が生じる気がしますので、難しいところです。ただ、インタビューの方法については、単に質問するだけでなく、ビデオを撮影して一緒に見たり、センサ情報等の客観的なデータと組み合わせたりするなど、工夫することはできるようです。